

TAMARIBA

「技術職員コンソーシアムの立ち上げ」

研究基盤協議会 技術職員コンソーシアム
コーディネーター
岡 征子（北海道大学）

（研究基盤イノベーション分科会/研究基盤協議会 幹事）

- 研究基盤協議会と技術職員
- 技術職員コンソーシアムの位置づけ
- コーディネーター紹介

研究基盤協議会と技術職員

研究基盤 EXPO 2022

研究基盤イノベーション分科会 及び研究基盤協議会

産学官が有する研究施設・設備・機器・技術といった「研究基盤」は、あらゆる科学技術イノベーション活動を支え、その戦略的な整備は本来重要な政策課題です。しかし、これまで研究基盤に対する政策的関心は低く、関連する予算・事業規模も限定的であったため、大学等における研究基盤の整備は進んでいない状況です。そのため、研究基盤に関する政策研究や IR (Institutional Research)、設備や技術のデータベースの整備、それらを取りまとめるための専門人材の確保も十分とはいえません。研究基盤イノベーション分科会はこうした課題に対し、産学官のステークホルダーが組織や立場を超えてオープンかつフェアに議論するための「場」となるべく設立されました。また、研究基盤協議会は文部科学省事業採択校の有志を中心とした国公私大そのほか関係機関を含む多様なステークホルダーが議論する新たな協議の場として設立され、研究基盤イノベーション分科会とクロスオーバーしながら活動しています。

研究基盤イノベーション分科会(第1回)
～産学官が有する研究施設・設備・機器・技術～

研究基盤イノベーション分科会
全てのステークホルダー
プラットフォームで「基」の形成

研究者
IR/IR研究会
技術職員
IR/IR研究会
事務職員
IR/IR研究会
UIRA
IR/IR研究会

技術職員コンソーシアムについて

※HP掲載内容を元に 本講演会説明用に整理した図

研究基盤を学術的に捉え、議論する場

研究・イノベーション学会
研究基盤イノベーション分科会 (IRIS)
2020.1～

- ▶ リサーチ・アナリシス機能
(研究基盤を科学し学会・論文での発表する。研究基盤の議論を活かす)
- ▶ アークアプ機能
(研究基盤に関する情報を保存し、誰もが閲覧可能とする)
- ▶ プランニング機能
(研究基盤協議会提案分の企画立案の実現化に向けた取組)
(学会員限定の企画立案実施)

研究現場の想いを経営者、政策立案現場に届け、
経営者の想い、政策立案現場の想いを、研究現場に届ける
「対話の場」

研究基盤協議会 (2021.1.29 始動)

- ・ 協議すべきテーマは部会化、部会がアンケート調査・分析などを行い議論をリードする
- ・ 新規テーマの提案＝新部会の立ち上げは随時可能

▶ クロスオーバー機能
(各ステークホルダーが組織・立場を超えて研究基盤を議論する)

部会

- 1 戦略的経営に資する研究基盤
(IR/IR研究会)
- 2 研究基盤共用システム
(研究基盤IR/IR研究会)
- 3 研究基盤に関わる人材育成
(技術職員等) (IR/IR研究会)
- 4 地方・地域貢献に資する大学等の
研究基盤 (IR/IR研究会)
- 5 研究基盤に関わるエビデンス
(技術職員等) (IR/IR研究会) **New!**

アドバイザリー
ボード
(研究基盤協議会出身
専任による支援)

若手
ネットワーク
(研究基盤文庫館の右
予備員による支援)

▶ アウトリーチ機能：年に1度の総合シンポジウムの開催 (幹事校を中心とした実行委員会にて開催。研究基盤に関する情報を収集し、適切に発信する)

研究基盤EXPO2021.2022 2年連続開催
2022年度 文部科学省ガイドライン/ガイドブック作成に提言

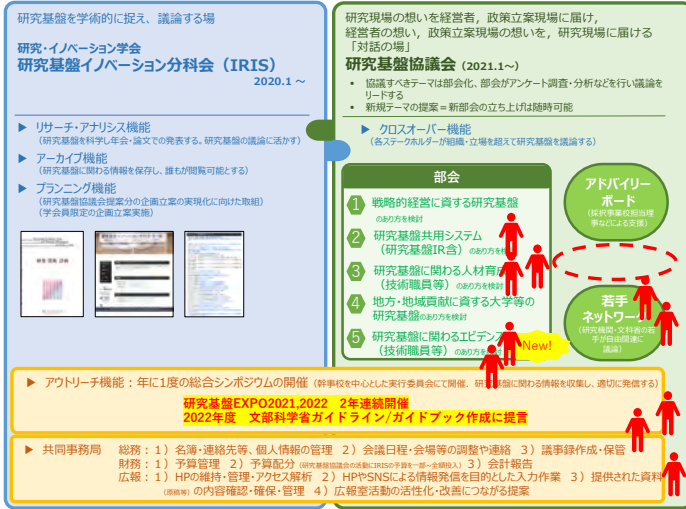
▶ 共同事務局 総務：1) 名簿・連絡先等、個人情報管理 2) 会議日程・会場等の調整や連絡 3) 議事録作成・保管
財務：1) 予算管理 2) 予算配分 (研究基盤協議会活動の経費に際しては予算書一括一括申請) 3) 会計報告
広報：1) HPPの維持・管理・アクセス解析 2) HPPやSNSによる情報発信を目的とした入力作業 3) 提供された資料
(IR/IR研究会) の内容確認・確保・管理 4) 広報室活動の活性化・改善につながる提案

【組織】

研究基盤協議会技術職員コン
ソーシアムは、研究基盤協議会
を母体とした技術職員を構成員
とする組織です。

技術職員コンソーシアムについて

※HP掲載内容を元に 本講演会説明用に整理した図



【組織】

研究基盤協議会技術職員コンソーシアムは、研究基盤協議会を母体とした技術職員を構成員とする組織です。

【成り立ち】

幹事、事務局員、部会員として活動する技術職員がコーディネーターとして集い、2022年3月に本協議会ならびにIRISの合同幹事会で承認された新たなコミュニティが本コンソーシアムです。

【組織】

研究基盤協議会技術職員コンソーシアムは、研究基盤協議会を母体とした技術職員を構成員とする組織です。

【成り立ち】

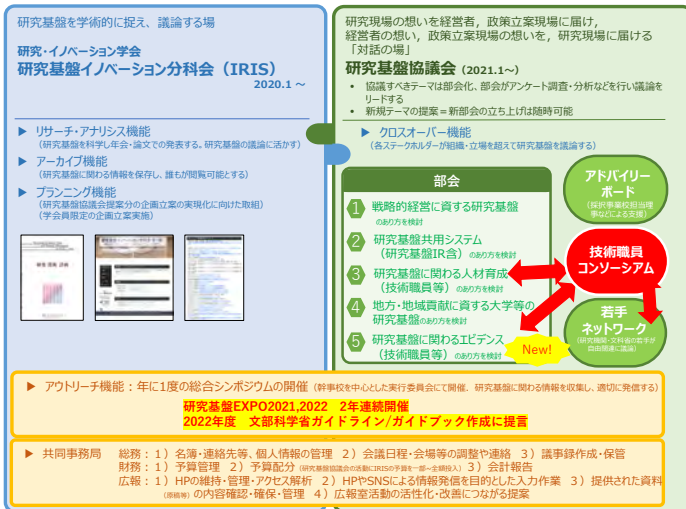
幹事、事務局員、部会員として活動する技術職員がコーディネーターとして集い、2022年3月に本協議会ならびにIRISの合同幹事会で承認された新たなコミュニティが本コンソーシアムです。

【想い】

研究基盤協議会に賛同し、参加くださる技術職員の皆さんがふらりと立ち寄り、共に議論し、共に悩み、共に楽しむことのできる拠り所になりたい。

技術職員コンソーシアムについて

※HP掲載内容を元に 本講演会説明用に整理した図



【組織】

研究基盤協議会技術職員コンソーシアムは、研究基盤協議会を母体とした技術職員を構成員とする組織です。

【成り立ち】

幹事、事務局員、部会員として活動する技術職員がコーディネーターとして集い、2022年3月に本協議会ならびにIRISの合同幹事会で承認された新たなコミュニティが本コンソーシアムです。

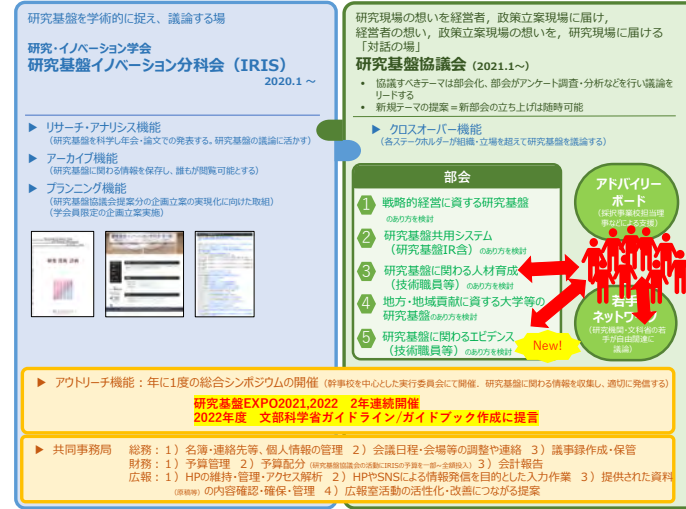
【想い】

研究基盤協議会に賛同し、参加くださる技術職員の皆さんがふらりと立ち寄り、共に議論し、共に悩み、共に楽しむことのできる拠り所になりたい。

そのような「たまり場」を協議会内に作ります。

技術職員コンソーシアムについて

※HP掲載内容を元に 本講演会説明用に整理した図



技術職員コンソーシアムについて

取り扱いテーマは

- 研究基盤の戦略的活用および共用の推進
- 技術職員のマネジメントの在り方
- 経営・研究戦略における技術職員の役割の明確化
- 研究力強化のための教員、事務との連携

これら幅広い内容を、所属機関の壁を越えて情報共有や意見集約、ディスカッション等を行う技術職員による技術職員のためのコミュニティとなります。

さらに協議会の部会活動やネットワーク活動、アウトリーチ活動と連携しながら、研究力向上にコミット！

あわせて、ここに参加する技術職員が各所属機関におけるビジョンや理念の実現に寄与することを目指して活動します。

技術の尺度って？ 人材育成プラットフォーム 保有していく必要がある技術とは？

技術の共有・・・

技術職員のミッション

TAMARIBA

技術職員コンソーシアムについて

参加対象者

技術職員コンソーシアムの活動趣旨に賛同する大学機関等所属の技術職員
(電気、機械、土木、建築、化学、物理、電子・情報、資源工学、農学、林学、生物・生命科学等 各分野の個人もしくは団体)

参加者の活動

1. 技術職員コンソーシアムから発信される各種情報の受信
2. 技術職員コンソーシアムにおける各種イベントへの参加・アンケート等への協力
3. TAMARIBA企画側への参加(希望者)

参加登録

本講演会終了後、準備が整い次第
TAMARIBA 参加登録を開始します。

アウトリーチ

研究基盤協議会の各WGおよび研究基盤イノベーション分科会(IRIS)と連携し、調査・検証結果は学会発表や文部科学省に発信するなど、研究環境改革に貢献すべく活動をして参ります。



技術職員コンソーシアム コーディネーター紹介

安東真理子 (東北大学)	TAMARIBA企画
稲角直也 (大阪大学)	データ分析部会 若手NW
岡征子 (北海道大学)	データ分析部会
杉山博則 (金沢大学)	人財部会
勢理客勝則 (琉球大学)	TAMARIBA企画 人財部会
服部崇哉 (名古屋工業大学)	データ分析部会 若手NW
横野瑞希 (鳥取大学)	若手NW
渡邊政典 (山口大学)	人財部会



- 3.人財部会
- 5.データ分析部会

若手NW



つづいて、TAMARIBAと深く連携する 研究基盤協議会の3部会ならびにTAMARIBA企画担当から今後の活動予告等を行っていただきます。

大学、組織、分野や経験値にとらわれることなく、研究基盤というキーワードを軸につながるチームTAMARIBA

多くの皆様のご参加をお待ちしております

研究基盤協議会

技術職員コンソーシアム





若手ネットワークの活動紹介

研究基盤協議会若手ネットワーク



研究基盤協議会若手ネットワークとは



研究基盤協議会プレイベント（令和3年1月29日）にて開催された、「若手技術職員×1年生ゼロ局員での政策対話@研究基盤EXPO2021」にて、**大学技術職員組織研究会、近畿地区女性技術職員ネットワーク、文部科学省若手職員**にて意見交換を実施。



登壇者17名をコアメンバーとして、研究基盤協議会内に「**若手ネットワーク**」として立ち上げ。

若手ネットワークの目的

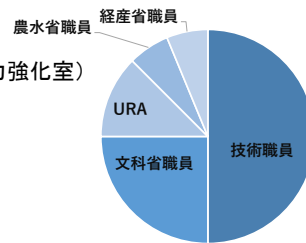
- ・研究基盤に関係のあるステークホルダー間での若手の情報共有の場とする
- ・若手ならではの視点で、研究基盤を考える



メンバー



令和4年5月時点



- ・青山裕一（スポーツ庁政策課）
- ・稲角直也（大阪大学理学研究科技術部）
- ・稲田顕子（九州工業大学飯塚キャンパス技術部生物・化学技術班）
- ・植原邦佳（大阪大学接合科学研究所）
- ・梅津太紀（文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課大学研究力強化室）
- ・江口奈緒（大阪大学科学機器リノベーション・工作支援センター）
- ・川谷健一（長岡技術科学大学研究戦略本部）
- ・木戸拓実（熊本大学熊本創生推進機構イノベーション推進部門）
- ・黒田玄（文部科学省科学技術・学術政策局研究開発戦略課）
- ・古川晃（経済産業省資源エネルギー庁原子力政策課）
- ・澤田夏樹（水産庁増殖推進部研究指導課）
- ・服部崇哉（名古屋工業大学技術部情報解析技術課（情報基盤センター勤務））
- ・廣瀬孝三郎（琉球大学工学部技術部）
- ・松本香（神戸大学大学院工学研究科技術室）
- ・山本真奈美（文部科学省研究開発局原子力課）
- ・横野瑞希（鳥取大学技術部）

（計16名）



活動内容



若手ネットワークのこれまでの主な活動

- ・月1回程度の意見交換等を通じた若手間の人脈形成
- ・「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」への若手からの意見出し
- ・研究基盤EXPO(2021,2022)若手企画



今後の予定

- ・月1回程度の意見交換等を通じた若手間の人脈形成
- 「お互いの仕事を知る」第2弾の検討
- ・研究基盤EXPO2023(仮)若手企画の検討





技術職員コンソーシアム 人財に関するアクション



研究基盤協議会に設置され、各ステークホルダーが組織・立場を越えて研究基盤を議論する場

部会3「研究基盤に関わる人材育成（技術職員等）のあり方を検討」

部会メンバー

教員

- ・五十嵐 敏文（北海道大学）
- ・中村 吉男（東京工業大学）
- ・江端 新吾（東京工業大学）
- ・長谷川 浩（金沢大学）
- ・境 健太郎（宮崎大学）

URA

- ・荒砂 茜（東海大学）
- ・川谷 健一（長岡技術科学大学）

技術職員

- ・玉岡 悟司（名古屋工業大学）
- ・勢理客 勝則（琉球大学）
- ・渡邊 政典（山口大学）
- ・杉山 博則（金沢大学）

教員、URA、技術職員の11名



部会3「研究基盤に関わる人材育成の在り方を検討」 これまでの取組
ガイドラインの構成に関して、

○ 研究基盤／共用事業の推進には人材育成の仕組みが重要

ガイドラインには、
設備・機器を管理・運用する人材の活躍・育成を図る事 → 組織としての好循環を生み出す
設備・機器と人材が活きるように共有化の取り組みを進める事が重要

共用システムの実装に関する事項 (2)「人材の観点」で人材の重要性について記述
特に技術職員に関して、処遇改善に関する取組、育成体系の確立（技能向上及び技術継承）、貢献について可視化する取組 重要という記述
その他、共用への技術職員の関わり方や具体的な方法について各機関における取組の例の明示

今後の方針

○ 人材育成・活用の観点から、日本の技術職員の在り方を改善する事に貢献する

- ・ ガイドラインに関する取組 解説と周知「各大学からの要請に対して情報を提供」等
追加事例・不十分点を精査してまとめる
- ・ センター系教員、コアファシリティ系URAのキャリアパスについて意見交換を始める

技術職員委員コンソーシアムとの連携

- 「ガイドラインに掲載されていない好事例の収集」「ガイドラインの不十分点の意見収集」
- 「技術職員組織化の支援」、「大学間の技術職員相互の交流」



「人財」という観点から

キーワード ... 「組織・組織化」「人材育成・スキル」「キャリアパス」

1. 組織化した事による大学の教育・研究に対する貢献などの事例を集め、整理する。組織化したことの利点・欠点をコンソーシアム内で議論し発信する。
2. 技術職員の技能の把握を進め、多種多様な技能を有する技術職員を理解する。
また、技術人材の育成に関して技術の伝承方法や技術以外の重要なスキルについて議論を深める。
3. 技術職員のキャリアパス創出のために必要な環境についての議論を深める。
4. ガイドラインについて好事例の収集や不十分点や改善について意見を集め議論を深める。

上記、さまざまな議論を通じて大学間の技術職員交流を促進できればと考えています。
日本の技術職員の在り方を共に考えていきましょう。

ダイバーシティ&インクルージョン
それぞれ技術・能力を持った技術職員の活躍が上手くかみ合い
より大きな事を成し遂げる環境構築

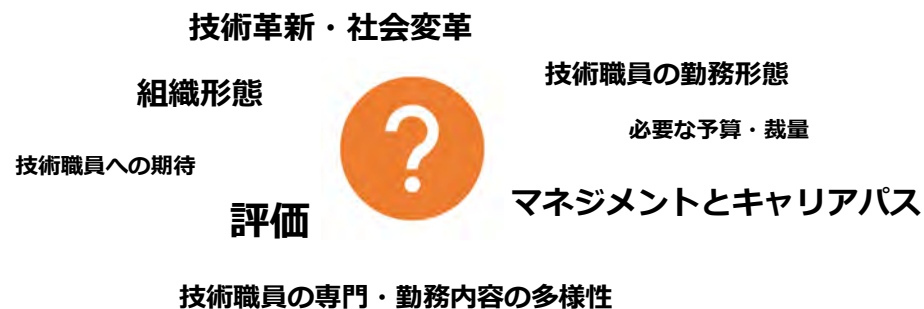




技術職員コンソーシアム 「データ分析部会」のご紹介



研究基盤の活用を支えるキーパーソンとして**技術職員の必要性はより認識されつつある**も、教育・研究現場における**技術職員の全体像が中々見えてこない**中で、議論が展開されている。

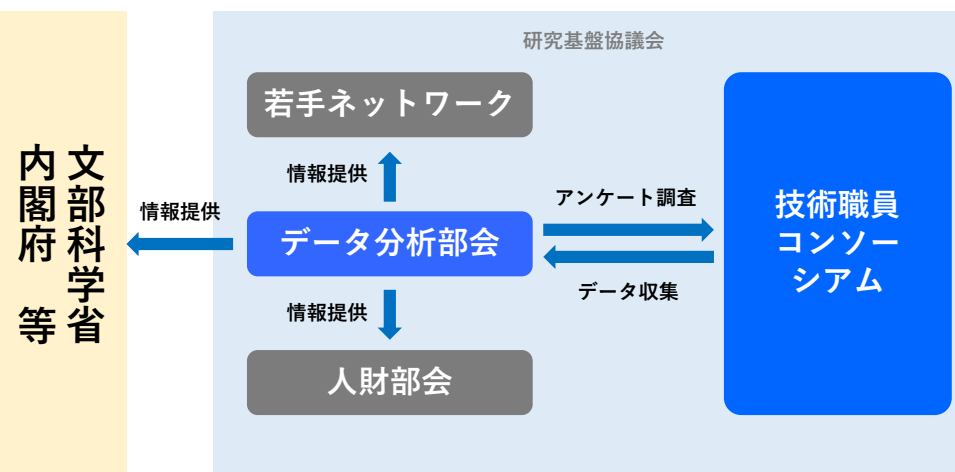


技術職員の現状とあり方についての**エビデンス収集・分析・議論**を行い、研究力強化と技術職員の活躍促進に資する**情報を見える化して提供、使える情報発信**を行う。

部会メンバー

- ・ 稲角 直也 (大阪大学 理学研究科技術部 技術専門職員)
- ・ 岡 征子 (北海道大学 技術支援本部 技術専門職員)
- ・ 服部 崇哉 (名古屋工業大学 技術部 技術専門職員)
- ・ 長井 圭治 (金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授 URA)

※2022年7月現在





データ分析部会の今後の動き



- ① 技術職員の実態調査（アンケート）の企画と実施
- ② 得られた回答の集計と情報提供
- ③ 得られたデータの独自分析とEXPO等でのアウトプット

データ分析部会は技術職員コンソーシアムと同時に誕生しました！
正しい技術職員像を把握するには、皆さまのご理解、ご協力が必要です！
アンケート実施の際は、どうかよろしくお願いします。





TAMARIBA企画担当

安東真理子 (東北大学)
岡 征子 (北海道大学)
※勢理客勝則 (琉球大学)



TAMARIBA



参加型企画実現へ向けて

TAMARIBAは皆さまで築くコミュニティスペース



例えば、こんな事考えています

メンバー交流の場「Tamariba」開催

- ・Tamariba XYZ
- ・Tamariba コアファシリティ

コーディネーターが実現したいことだけでなく、コーディネーターに実現してほしい事。自ら企画提案して実施したいことなどをアンケートで募ります。

コーディネーター+応援隊を募って企画実施も検討中。

どなたでも企画担当者になれるし、またその方をバックアップできる体制を考えております。

アンケート実施予定です。ご協力をお願いします。



今後の予定

メンバー交流の場「Tamariba」開催へ向けてアンケート実施予定

- ・ Tamariba XYZ
- ・ Tamariba コアファシリティ
- ・ Tamariba award winner などなど

秋ごろ
データ分析WGより、技術職員の実態調査（仮）アンケートの協力依頼予定

年明け
研究基盤Expo企画で発表！